

## 二百年企業

首藤 静夫

サステイナブルという言葉が飛び交っている。直訳すれば持続可能性となる。

私たちが現役のところは組織が安定して存続するための条件をいつていた。今はSDGsのように地球や自然環境に配慮しつつ活動を維持するための条件と幅広く使われる。

エノキアン協会という経済団体がある。聞き慣れないが、仏企業が音頭をとって四十年ほど前に設立された世界の親睦団体である。加入条件がおもしろい。

・会社創立二百年以上 ・創業者の一族が現在も経営に関与 ・健全経営

世界中で五十社が加盟しているそうだ。国別には仏十五社、伊十一社、日本十社がベスト3。米国、中国、露はゼロだ。

GMもGEも入らない。鴻池、越後屋もトヨタ、日鉄もお呼びでない。五十社に巨大企業は一社もない。日本では、法師の湯(小松市)を筆頭に虎屋、月桂冠、山本山、岡谷鋼機、ヤマサなどが会員だ。

彼らは申し合わせたように、規模を追わず、利潤を追い求めずが家訓だそう。無理をするな、他の商売に色気を出すな、わが道を着実に歩めと。ビッグビジネスに急成長すると三代続くことはまれで、大概がサラリーマン経営者が銀行管理になる。

今の世の中、世界中が浮き足立ち、あらゆる資源を食い尽くして巨利爆利を求め、トップに君臨しようとする。立ち後れた日本がその後をまた追いかけるのだろうか。経済の成長を追い求めるのはほどほどにして、もっと大人の国の姿に変えてはどうか。

ジャパン アズ ナンバーワンの時代を経験した今のシニアは、国際経済競争に執着が残る。しかし若者は醒めていないか。マイカーもマイホームも欲しがらず、まあまあのところを手を打っている。焦っているのはシニアではないのだろうか。

総務省によると日本の人口は今世紀末には四千七百万人台に急減するそうだ。これは明治期後半の水準だ。一方高齢化はこの間漸増する。このトレンドを見据えて長期的なセツルダウンの方法を与野党一体で真剣に議論してほしい。